

2人目の偉業

「九州シニア3冠」

グランドシニア優勝で達成

7オーバー、151

70歳の武田 幸一（かほ）



過去に1人しかいない偉業達成である。九州シニア・九州ミッドシニア・九州グランドシニア選手権のいわゆる「九州シニア3冠」のタイトルをついに手にした。これまで大川重信（福岡サンレイク）しか成し遂げていない。武田は九州シニアを2009年、九州ミッドシ

ニアを2016年に制しており、九州グランドシニアの優勝カップを2度目の挑戦で掲げることとなった。

「(優勝を)まさか取れるとは思わなかった。その気もなかった。なぜ優勝したって? コースが難しかったので、コースへの反発かな」と武田はサラリと言っていた。今回の会場である宮崎CCは11月下旬に開かれる日本女子プロ協会のメジャー競技「ツアーチャンピオンシップリコーカップ」のゴルフ場としても有名。同大会のコースセッティングに合わせるためラフがかなり深い。その上に高麗グリーン。各選手は手を焼き、2日間でアンダーパーどころか、パープレーで回った選手は1人もいなかった。そんな難コースに武田のハートが刺激されたのだった。

初日が1バーディー、5ボギーの76。最終日が1バーディー、4ボギーの75。悪くてもボギーまでに抑えたのが優勝につながったのである。宮崎CCはアウトとインを比較すると、インの方が選手を悩ませた。武田は今回も出場し、九州代表として全国大会に赴く丹村和成(鷹羽ロイヤル)とともに10月7日と大会前日の11日に2度練習ラウンドを行った。7日にインの難しさを体感した2人は、11日にはアウトは回らずにインだけ2度ラウンド。「ティーショットを刻むホールとかがはっきりした」。コース戦略がピタリとはまった。

もちろん、優勝するまでには「腕」や「運」が不可欠だ。「ここ数年ずっと調子が悪かった」と武田が振り返ったが、優勝争いどころか、上位にも食い込めない。ところが、ひょんなことからゴルフの調子が好転する。昨年11月、プライベートで自身3度目のホールインワン(久山CC)を達成した。この時、周囲へのプレゼントを買うために知り合いのショップへ出掛けたのだが、その店の主人が使用していたスコッティーキャメロンのパターを2万5千円で譲り受けることに。このパターに出会ってから武田のグリーン上の調子が俄然上向く。さらに、ドライバーもテーラーメイドからピンに変えてティーショットが安定してきたという。様々な要素が詰まったの3冠達成となった。



長年、消防署に務め、ゴルフは25歳から始めた。再雇用も含め、消防署は63歳で退き、現在は農業とアルバイト。「退職金はゴルフでほとんど使ったのでなくなった」と豪快に笑い飛ばした。これまで全国大会には日本アマ、ミッドアマ、シニア、ミッドシニアで参加し、今回のグランドシニアと5部門での出場を果たす。「四国でゴルフをするのは初めてじゃなあ。丹村さんと2人で優勝争いしたら最高。(競技が)4日間なら(優勝は)難しいが、2日間なら何が起こるか分からん」とひそかに優勝カップを狙う。会場の鮎滝CCは香川県高松市にある。11月の本番前に2人はどんな練習ラウンドをして、作戦を練るのだろうか。



